

最終回 市民ワークショップ

「若槻の公共施設の将来像をまとめよう」

をテーマにグループ討議を行いました

回
覧

11月11日(日)若槻コミュニティセンター体育館で、最終回となる第4回「若槻地区の公共施設を考える」市民ワークショップを開催しました。

前回の内容を振り返った後、活発なグループワークを行い、各グループの発表を行いました。信州大学工学部の羽藤准教授からの講評、住民自治協議会の吉澤会長のあいさつ、長野市の倉石総務部長から御礼のあいさつの後、参加者全員で記念撮影を行い、若槻地区のワークショップは幕を閉じました。関係の皆さま、ありがとうございました。



信大 羽藤研究室の学生も交え、地区の将来像などを話し合い、グループごとの公共施設の将来像を、短い時間の中でまとめて発表していただきました。(詳細は次ページをご覧ください)

今後、具体的な再配置等に向けた検討につきましては、今回のワークショップでいただいたご意見等も参考に、地域の皆さまや、広く市民の皆さまの意見をお聴きしながら協議を重ねてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

市民ワークショップや公共施設マネジメントに対するご意見、ご要望などありましたら、遠慮なく下記までお寄せください。

今回のワークショップは、若槻地区住民自治協議会のご協力のもと、公募及び地区内からご参加いただいたメンバーで、熱い討議を重ねていただきました。

【お問い合わせ先】

公共施設マネジメント推進課

電話:224-7592

若槻支所

電話:296-3908



Cグループ コンセプト 【安心安全な若槻】

支所・公民館

- ・ 移転建替えによる税負担は避けたい
- ・ 交通の面から周辺地区の支所を使う事が多い

移転・建替えをせず現状維持
(メンテナンスのみ)

昭和の森公園周辺

フィットネスセンターを世代間交流の場に

交番の新設

サンロード周辺に

《効果》

- ・ 住民同士の顔が見える地域
→ 若槻は特に人口が多く、関わりの薄いパート住民や新興住宅地の住民とも交流をすることで防災・防犯等に役立つのではないかと

《課題》

- ・ 支所や小学校等は「ザードマップ」の100メートルにあるため、適宜建替え移転の検討も必要
- ・ 昭和の森公園は駐車場を広げ交流の場にしたい
→ 現状、火気の使用が不可。火器の使用を可能にし、BBQ等で人が交流できる場にしたい。

Dグループ コンセプト 【地域のための拠点づくり】

ステップ1

支所・公民館

- ・ 若槻小学校の空校舎に移転
- ・ 支所・公民館を除却後、民間に土地を売却

若槻郵便局～消防分署まで東西に新しい道路を整備

ステップ2

若槻児童館、若槻保育園、交番

- ・ 新しい道路の周辺に複合施設を建設（全ての機能を1施設に集約しなくてもよい）
- ・ 交番が近くにあると小学校も安心

《効果》

- ・ すべての施設が身近になる
- ・ 東西交通の利便性向上
- ・ 新たな複合施設は防災拠点として地域の安全を担う
- ・ 複数の目的を持って多世代が集まる など

《課題》

- ・ 交通手段の充実が必要
- ・ 北側に偏る（南の地区の人にとっては今までより遠くなる）

《自分たちにできること》

- ・ 世代を超えたサポート
- ・ 小学校の図書館の本の整理など各自が出来る事をボランティアで提供する（労働力、子ども見守り等）

Eグループ コンセプト 【手続きと人的交流のワンストップ複合施設】

支所・公民館

移転して、複合施設とする
(既存の施設は体育館として活用)

- ・ 単独の機能だけでは使いづらい
- ・ 既存の施設への複合化がコスパがいい

➤ 移転先条件

- ・ 人が集まる場所に複合化すれば交流が生まれる
- ・ アクセスのいい所、バスで行ける所
- ・ 将来的な公共施設の縮小を見越した余剰地

➤ 複合化する機能

- ・ 支所機能は最低限のものとし、例えば、児童センター（午前中はデイサービスセンターとして活用、午後は子どもと高齢者の交流の場）、図書室、コンビニ、銀行（ATM）等と複合化

《効果》

- ・ 多世代交流
- ・ ついでに行ける（一か所で用が足りる）
- ・ 目的がなくても来たくなる

《課題》

- ・ 防犯、セキュリティ、安全の確保
- ・ どんな機能を入れるかの選定（地区での話し合い等が必要）
- ・ 施設管理者（誰が、何を、どのように）

《自分たちにできること》

- ・ イベント企画、運営
- ・ 職業体験の講師、場の提供
- ・ 施設管理の受託





信州大学
学生の皆さん

住自協 吉澤会長

羽藤准教授

参加者アンケートの主な意見をご紹介します

- ◆ いろいろな人の意見を聞く事ができ、面白かった。行政に対する期待が高まった
- ◆ 民間との複合施設が出来るととても使いやすくなると思う。公共施設を民間施設のテナントとして整備する事を期待する
- ◆ 今回のような社会人向けのワークショップを高校生等の若い人達にも考えてもらう企画があれば、年代別の考えが解り、幅が広がると思った
- ◆ 4回連続で参加は厳しい！
- ◆ 公共施設は立地、利便性が大事！地域の交流の場としての役割がある。民間資本の活用という発想が良いと思う
- ◆ このまま何も考えずに生きていってはいけない！少子高齢化は様々な形で我々の生活に関わっている。公共施設がいつまでも同じように存在する可能性がないと感じ始めた。一人ひとりの考えと意識改革が必要
- ◆ どうしても暗い話になりがちだが、参加者としてはもっと、こうしたらこんな楽しいコトができるよ、こうしたらこういう活動がしやすくなるよ、これとこれを一緒にしたら便利になるよ、など明るく楽しい未来を想像できる進捗が欲しかった
- ◆ 各自それぞれに考えがあり、色々な意見、アイデアを聞く事ができ、とても参考になった
- ◆ 時代によって公共施設の機能や在り方が変わることについて考えさせられた
- ◆ 区の役をやっていますが、区のやれることなど考えていく必要もあるのでは？と改めて思います
- ◆ 30代、40代の参加者の出席率が良くない。理由としてはやはり地域の行政・事業に関心がないこと。ワークショップに4回出席するために土曜日・日曜日をつぶすことは無理なのかもしれないと思う
- ◆ 住民自治協議会の存在をもう少しPRする必要があるのではと感じた
- ◆ 自分たちにとって、公共施設が何のためにあるのかを再認識した

【羽藤准教授の講評】

4回のワークショップお疲れ様でした。学生も良い経験をさせていただき、感謝申し上げます。3回目のワークショップの結果を踏まえ、学生から支所・公民館の将来像を2つ提案した。何も議論がなければ、単純に支所・公民館を現地で建替える提案となるものが、公共施設を取り巻く状況や施設の具体的な利用状況、求められる機能等を各グループで討議した結果、多くの意見が出て、課題やいろいろな可能性を皆さんで共有できたことが、このワークショップの大きな成果であると思う。

【住民自治協議会 吉澤会長あいさつ】

貴重な休日にも関わらず、4回にわたるワークショップへ大勢の皆さんに参加して頂き深く感謝を申し上げます。若槻小学校や支所・公民館、高齢者と若年層とのふれあい、子育て支援等、皆様から色々な意見が出ました。住自協として、支所・公民館の建て替えについて、今回の意見を参考にしながら、これから検討委員会を立ち上げて今後の方向性を検討し、長野市へ提言していきたいと思っております。

約2か月間という長期間にわたりまして本当にお疲れ様でございました。